

加須市長賞

真心という名の税金

加須市立昭和中学校

二年 藤倉 来妃

「税金」という二文字。租税として納める金銭。言葉の響きだけだと、何だか固苦しく重たいイメージ。一番身近に感じる税は、消費税。しかし、私たちから集めた税金が、実際どのように使われているのかを目にすることはあまりない。というより知る機会がなく、実際は、ふと見回せば、税金という名札を貼った物や事柄があふれている。

二〇二〇年、世界を恐怖に落とし入れた新型コロナウイルス感染症。学校へも行けなくなり、人と会う事も出来なくなり、ただただひたすらずっと家に居たあの頃。選手クラスで毎日泳いでいた水泳にもいけなくなりコーチから送られてくる動画を見て必死に身体を動かした補強。そして一番の苦痛だったマスク生活。お店からマスクが無くなり、母が、色々な所へ探し回っていたのをよく覚えている。そんな中、我が家に届いたアベノマスク。不織布マスクが底を尽きそうになり、そのマスクを使わせてもらった。とてもありがたかった。救われた気持ちになった。その時ちょうどニュースで流れてきた、アベノマスクについて。新型コロナウイルスの感染対策として、政府が全世帯に配布した物。マスクの調達費用、配送費用などあわせて、約二百六十億円をかけたと報じられ、「税金の無駄遣い」とも批判を浴びた。

税金の使いみちは、国民が選んだ国会議員市区町村や都道府県の地方議会議員を通じて、国民が決められていると言える。この予算に基づいて、みんなで暮らしやすい環境をつくる為の様々なサービスを提供している。見渡せば、税金から成り立っている物は多々あった。校舎や教科書、病気やケガの時の医療費、お年寄りの為の介護や年金、新型コロナウイルス対策や地震、洪水、火山の噴火、どれもこれも税金が使われている。実際は、目に見えているものと、今まで何気なく利用していたり活用していたものが、実は税金で成り立っていたと気付くものもあった。

アベノマスクのように、税金の無駄使いだと感じた人もいるだろう。実際、まだ使用されていなく大事にしまっている人は、マスクを見るとそう感じるかもしれない。しかしあの時マスクが届いて、そのマスクを利用し、大切な命を守った人もいるだろう。また、誰かの命を救ったかもしれない。これからもそうなるかもしれない。確かに税金は、一生懸命働いている人や、私たちも微々たるものかもしれないが、消費税という形で税を納めている。「税金」という形で見える確固たるものと、税金の上に、人間の気持ちの温かさや思いやりがあり、時には尊い人間の命を守ったり、かけがえのないものとして、全てをひっくるめて、大切な税金なんだ、ということ、改めて知る機会となった。人間の真心があつてこそその税金。だからこそ、大切に扱っていかなければならない。私たちの日本の未来のために。